

藤 沢

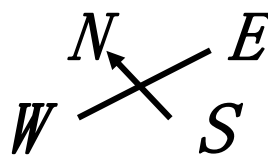
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2022年7月1日

第338号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・「グレタ、一人ぼっちの挑戦」
- ・地球交響曲第9番を鑑賞・憲法審査会傍聴
- ・横須賀石炭火力発電、11月判決へ
- ・「気候時計」をご存知ですか？

食糧自給率向上に向けた農政を

最近の物価高は目まぐるしいです。タマネギ1個 172円、消費税を入れて185円！。子どもたちが大好きなカレーライスを作るのにタマネギが不足とは思ってもよらなかったことです。その他パンをはじめ醤油や食用油など軒並に値上がり…。

日本の食糧の自給率はカロリーベースで37%。低い自給率には、農産物の輸入に頼ってきた結果ではないでしょうか。輸入の割合は小麦→アメリカ、カナダから84%（国産16%）大豆→アメリカ、ブラジルから94%（国産6%）トウモロコシは100%をアメリカ、ブラジルから輸入（2020年農水省調べ）となっています。日本は小規模の農家が多く、高齢化による農業後継者の減少、またそれに伴う耕作放棄地の増加など農業そのものの衰退がみられます。

関税が撤廃され、外国産の農産物などが輸入しやすくなり、安い外国産の影響で農業が成り立たないといったことが起き、タマネギの値段があがったのは、日本の少ない生産者の上に、天候不順による病害により不作がおきました。円安の影響で一層価格が上がると言われています。

「外国産依存で安全性への不安もある。生産者を応援する農政を実現してほしい」との声が聞こえてきます。キャベツが安くなり採算が取れないので収穫せずそのまま畑で耕してしまう事態は消費者にとって、もったいない！と叫びたくなります。

コロナ禍での人や物流の混乱など複合的な要因で、国内の食料生産に欠かせない肥料、飼料、燃料なども国際価格の高騰で安定した調達が困難になり値上げが続いています。これらは農業経営を直撃し、生産をさらに衰退させます。

戦後直後の日本の食料自給率は88%でした（1946年度）。ところが、1965年度に73%、そこから下がり、2000年度以降は40%前後で推移してきました。日本では生活が欧米風に変化し、食生活もコメの消費が減る一方、肉やパンの需要が急激に増えました。現在、世界中の異常気象あるいは国際政情不安で輸入が制限されればすぐに食料不足に陥ることになります。

飢餓で苦しむアフリカなどの現状が報道されていますが、日本もそうならないように手を打たなければなりません。食べ物を作り農地を保全するための法整備や予算を拡充することが大切です。効率優先でなく、人や環境に優しい持続可能な農業の仕組みが食糧の自給率向上につながるはずです。



ノウゼンカズラ（オレンジ色です）

(荒井)

「グレタ ひとりぼっちの挑戦」

この映画は 2021 年秋に製作された。

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリという高校生が世界中に気候危機の深刻な問題を告発して行動した物語。地球温暖化が進む今日、環境問題に旋風を巻き起こした勇気ある行動の記録。

アスペルガー障害であり、勉強オタク（と本人は言っていた）であった 15 歳の少女がひとりで学校ストライキを始めた。「未来のための金曜日」として注目を集めるようになった。

ポーランドで開かれた COP24 に父親と参加しスピーチで「気候問題が選挙の争点になっていない」と参加国の代表に手厳しい訴えをした。

子どもの言う事を受け止めない大人、政治家たちも多く、バッシングに苦しみ家族や仲間と闘った。

ニューヨークで国連気候サミットが開かれ、彼女はヨットで父親とともに参加した。飛行機はたくさんの温室効果ガスを出すから…。その頃、グレタは有名人になっていて、多くの仲間がヨットを見送った。航海の苦しみや生活も記録されニューヨークでは多くの人が出迎え感動的、そのすべてが映像で見る人の心をつかんだ。「あなたの家が燃えているとき、消し始めるのに数年待つことはないでしょう」（20 年 3 月欧州議会での言葉）

ぜひ見ていただきたい映画だ。

感想から

・グレタが挑戦したことは良かった。政治家は言う事とやることが違っている。大人には子どもから学ぶことがあることを忘れてはいけないと思った。

・両親が大変だったと思う、食べ物にも肉は食べないなど気を使っていた。気候変動がお金によって動かされている。いろんな人が集まっていくことが大事と思う。ヨットのシーンは見ている方もしんどかった。

・感動した。人間としての役割をもって全力で向き合っている。人の心を動かす力が感じられた。

・こうしてはいられない！ 環境問題にもっと関心を持っていかなければ！

・一人でも確信を持って学校の授業より大事な事とストライキを始める少女は気候問題の深刻さを知って始めた事、感動した。両親も寄り添って励まし世界会議に参加した行程、すべてが感動的だった。（H）

気候時計をご存知ですか？

記録的な猛暑で、連日の節電要請が出ています。当面の電力逼迫を乗り越えるためには必要なことです。

しかし、この異常気象の原因は、温暖化があり、根本的にはパリ協定の世界平均気温を 1.5℃に抑えることが急務です。この度の G7 でも「気候クラブ」を設立し、世界中で取組を強化することが求められています。

4 月のアースデーに始めたスタンディング・「気候時計」をご存知ですか？ を毎月 1 回はおこなおうと始めて 3 回目となりました。

第 1 回は藤沢市役所本庁舎前で行い、チラシを配りました。市民の方々が多かったようです。市役所の職員も受け取っていました。気候非常事態宣言で「気候変動の危機的状況をあらゆる主体が広く情報を共有し、協働して気候変動に取り組みます」と市長が表明し、職員も意識しているようでした。

5 月、6 月は下校時刻に合わせ 16:30 から短い時間で六会日大前駅でスタンディングを行いましたところ、大学生に交じって、多くの中学生がチラシを受け取りました。キッカケは気候時計のこと「知ってる？ 興味ある」と声を掛けると足を止めてグループの輪ができ話ができました。

QR コードをスマホで読み込むと「気候時計」がダウンロードできますというと「ありがとう」と返事が返ってきます。関心が高いようです。

特に、今回スタンディングに親子連れで参加した小学生がチラシを渡すと受け取ってくれることが多いことが特徴的でした。

若い人たちが自分たちの将来について関心を持つということが、私たち大人にも責任があると感じました。チラシの内容を多くの方々に共感して貰えるように改善することが必要と感じています。

次回、スタンディングは 7 月 14 日（木）16:30～六会日大前駅（西口）を予定しています。

単に、「気候時計をご存知ですか」ということではなく、「気候時計を作ってみよう」というテーマでワークショップ（親子連れで）を企画してはと考えています。当日のスタンディングに親子で参加を希望します。



マイ気候時計のダウンロードは
こちら→
(気候危機アクション藤沢)



横須賀石炭火力発電、11月判決へ

横須賀市久里浜に石炭火力発電所の建設許可の撤回を求めた行政訴訟裁判は6月6日に結審し、11月に判決と決まりました。

この訴訟は、停止していた石油火力発電所が石炭火力発電所として再稼働することに反対するものです。

原告らは、

- ① CO2 排出が多い石炭火力は地球温暖化対策に逆行する、
- ② 石炭燃焼で大気が汚染し健康が害される、
- ③ 温暖化で気候危機、水産資源も激減するなどを理由に提訴しました。

6月6日午前9時30分に東京地裁に着くと傍聴の抽選はないのですぐにロビーに、その後法廷に向かうも、傍聴は原告も含め50人に制限されており、私を含め多くの方が傍聴できずませんでした。そこで裁判後の報告に参加。弁護団長の小島弁護士から説明を聞きました。

原告団は工事を許可した手続きに瑕疵があり許可は取り消すべきと主張、これに対して被告国側はまともに反論できていないとのこと。ただし多くの行政訴訟で国の意向に沿った判決が多く、その壁は低くない。

勝訴には判決までの間に公正な判決を求める裁判官への働きかけが重要とのこと。国の意向に反した判決をしても、世論と国民は味方ですよと裁判長を励ますこと、だそうです。

参加者からは、判決までに工事が進んでしまうのに、どうして時間がかかるのか？ 裁判長はどうしてそんなに国に忖度するのか？ などの質問があり、小島弁護士からはユーモアを交え回答がありました。

報告会の後は勉強会「石炭火力とイノベーションの問題」が行われました（YouTube 録画を「横須賀石炭火力訴訟ホームページ」→「文書」から視聴できます）。

話題の「アンモニア混焼」など最新技術の情報をお聞き下さい。
(菅谷芳雄)

地球交響曲 第9番を鑑賞して

6月11日。湘南台市民シアターで、地球交響曲第9番の上映と、ヒーリングサウンドが行われました。

始めに「音による心と身体の癒し」を探求して30年の牧野持侑氏と「安らぎの音サロン」を開く伊藤千香子氏を迎え、クリスタルボウル、カリヨン・チャイム、歌を中心としたユニットサウンド「冷音」の演奏がありました。

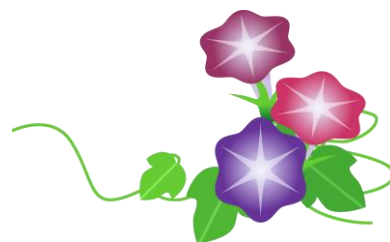
ヒーリングサウンドは、健全な血液環境を作り、リセット医療効果があると言われています。今回60分のヒーリングは、全ての毛穴が音の波動をキャッチして心身が解き放たれているように感じました。また123分の映画鑑賞は、最後まで集中して見る事ができ、気づいたときは驚きました。少し不思議な気分です。

龍村仁監督の地球交響曲第9番は、1番～8番（作品）同様に、スピリチュアルな人のメッセージを映像や話などで伝えています。

「多様なものが多様なままに生きる、それはいのちの摂理」と語る分子生物学者・本庶佑氏。「歌声によって高度なコミュニケーションをしていたネアンデルタール人は、人類の心の始まりを知る鍵だ」とする認知考古学者・スティーヴン・ミズン氏。聴力を失ったベートーベン作曲の交響曲第9番「合唱付き」を、500回以上指揮を執って70年間作曲者を熱く追い求める名指揮者・小林研一郎氏が「聴こえない音を聴く」境地を楽団員や一般公募の人を含む合唱団員とともにメッセージを奏でました。

一貫して「地球の声が聞こえますか」と呼び掛けてきた龍村仁監督ですが、なんの脈絡もなく別々に起こっている様に見える「現実」を、一気に時空を超えて結んでしまう音楽の共時性を深く感じながら「すべての生命は音から生まれ音に還ってゆく」と結びました。心地よい音を受け入れ、心で聞いてみます。想像力があれば、真実や大切なことが見えてくる気がしました。

(大須賀陽子)



衆議院憲法審査会を傍聴して

昨年秋の総選挙の結果、改憲に前向きな維新の会と国民民主党が議席数を伸ばしたことにより、憲法審査会の在り方に大きな変化が生じました。

予算審議中はそれを優先して憲法審は開催しないという慣例を破ったこと、また憲法審の前身であった憲法調査会の初代会長の中山太郎元外相による少数派の意見も尊重する「中山方式」といわれる丁寧な運営方式が憲法審にも引き継がれてきました。しかし、その軽視、さらにはあれほど改憲に固執第2次安倍政権の下でさえ、野党による反対で憲法審の開催は滞ったことがありましたが、今回の国会会期中は、2月半ばよりほぼ毎週開催され、衆院で15回、参院では6回も開催されました。私は毎回傍聴したわけではありませんが、少数意見が無視され、会議の終わりに自民党の筆頭幹事の新藤義孝議員が勝手に取りまとめをしたことには驚きと疑問を感じました。

そもそも国民の側から改憲の要求が高まってきて初めて審議されるべき改憲が、その尊重と擁護義務(99条)を課せられている国会議員が率先して審議すること自体が憲法違反ではないか、また衆参いずれかの総議員の四分の一以上の臨時国会開催の要求(53条)にも応じない憲法違反の与党議員たちに改憲審議の資格はあるのか、大いに疑問とするところです。

審議の内容に関しては、ロシアによるウクライナ侵攻を理由に自民や維新などからは九条に自衛隊を明記する九条改憲、また感染症の拡大や大災害、テロや武力攻撃などに備えて緊急事態条項の創設が出されました。現行の法律で対処できる可否かの論議もなく、いきなりの緊急事態条項の提案は改憲ありきを前提とした議論であり、強引な運営と合わせて大変危険だと思いました。

そのような中、共産党の赤嶺議員が沖縄では憲法の上に日米地位協が置かれ、県民の人権が脅かされている憲法蹂躪の現実こそ正さなければならないという発言が印象に残りました。(島田啓子)



ECONET INFORMATION

▲ウクライナの子どもたちへ愛を

井上アンナさんのお話し&ポールさんのライブ
7月10日(日) 14:00—

場所-エコストアパパラギ 2階

参加費 ¥300 申込 0466-50-0117

主催-気候危機対策ネット・エコストアパパラギ



▲気候危機アクション 街頭宣伝 六会日大駅

7月14日(木) 16:30-17:30

スタンディングします ご一緒に参加を!!

主催 気候危機アクション藤沢

▲コロナ禍と教育 ~その危うさと希望~

講師 佐藤隆さん(都留文科大教授)

7月23日(土) 13:30-16:00

市民会館第二展示ホール ¥500

主催 みんなの教育・ふじさわネット

▲セミの羽化観察会

7/29(金) 7/31(日) 6時30分~8時

長久保公園 ☎34-8422 子どもと保護者9組

主催 藤沢クマゼミ研究会



▲福島原発かながわ訴訟

7月14日(木) 10:00開廷 横浜地裁(9:15地裁前

集合) 報告集会 11:15-横浜情報文化センター6F

福島原発かながわ訴訟を支援する会 070-1316-4575

▲藤沢エコネットから

会費等の振込ありがとうございます

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 7月2日(土)

10:00~六会公民館

《編集後記》6月下旬に梅雨が明け、早くも灼熱の夏。熱中症で病院に運ばれる人のニュースが絶えない。温暖化は確実に進んでいる。私が小学生の時は夏休みの気温調べで最高温度は33℃位だった。最近は35℃を軽く超える。温暖化を止めなければ。石炭火力発電ストップ、再生可能エネルギーに！戦争は最大の環境破壊、毎日ウクライナでは爆弾が落ち、温暖化ガスが大量に吐き出されている。一刻も早く戦争ストップ！日本も戦争への備えより、平和構築の外交努力を。(A)